

歌舞伎の



上・下/歌舞伎十八番の内「解脱(げだつ)」

写真提供=岩田アキラ

◆すいせんの言葉

早稲田大学名誉教授 郡司正勝
日本芸術文化振興会理事

このたび、「歌舞伎の後見」というユニークな作品ができました。

後見は、舞台にあって、主役を助け、芝居をスムーズに進行させるための重要な役ですが、目立ってはならぬという原則のために、見物の目に入らぬものです。この映画は、その後見に主役の焦点をあてた特殊な作品となりました。

舞台裏から初めて見る、後見の出所・進退の見事な訓練と行儀は、なまじいの役者の及ばぬ芸となっていることを知ることができます。

合引あひびきの出し入れ、差金さしがねや差出しの呼吸、衣裳の引き抜き、小道具の手渡しなど、主役の呼吸と芸の間を計っての行動は、ほとんど所作事しよきごと(舞踊、踊り)のような様式美をさえ感じさせます。

後見には、黒衣くろご、紋服もんぶく袴はかま、袴の衣服を着分ける三通りの役どころがあります。また、「双面」の後見のごとく、付けゼリフをする役は、その主役の分身として、黒衣の頭巾の中では、美しく化粧して、立派に一役となっていることなど、驚きと発見をすることと思います。

●配給

後見

◆企画・監修
日本芸術文化振興会
国立劇場

◆製作
(株)桜映画社
◆監修・指導
中村又五郎

◆演目
菅原伝授手習鑑
(車引き・寺小屋)
双ふた面おもてみづにてるつき 水照月

◆資料提供

東京都中央図書館
松本幸四郎事務所
ジャン=ルイ・バロー

◆協力
「車引き」 澤村大蔵
「解脱」 坂東みの虫
市川團十郎 市川左太郎
澤村宗十郎 市川右之助
市川右之助 市川右之助
市川丹寿 中村歌女之丞
「寺小屋」 尾上梅之丞
片岡松之助 中村京妙
中村紫若 中村又之助
坂東橋太郎 他公演関係者

◆規格
16ミリ・カラー・44分
◆販売価格(消費税別)
16ミリ/330,000円

教育映画祭最優秀作品賞
文部大臣賞
日本映画ペンクラブ推薦

◆解説

歌舞伎では、舞台の演技者以外に後見と呼ばれる人物が登場する。後見の手によって、芝居の進行中に舞台が変わり、役者は変身する。華やかな女形や立役とて目か向きがちな舞台の上で、後見は実は重要な役を演じているのである。

カメラはまず、若手による歌舞伎公演の舞台やその稽古風景の後見の姿をじっくりと追っていく。稽古場では、座る役者に合引をあてるタイミングや、小道具の受け渡し、衣裳の引き抜きなど、事前の打合せも念入りだ。役者が安心して演技できるのも、後見の心遣いにかかっている。

後見は、19世紀初頭に出版された『^{しばいさんもうずい}戯場訓蒙図彙』の中に黒衣姿で描かれており、この頃には歌舞伎の中に定着していたことがうかがえる。また今日、そのスタイルは西欧の近代劇にも影響を与えている。

後見の役割も、芝居によって様々にある。黒衣が亡霊の声の役を受け持ったり（「^{ふたおもて}双面」）、黒衣でなく着付後見の姿で務めたり（「^{げだつ}解脱」）もする。

さらに後見の名人といわれる人の話を聞いていくと、誰にでもすぐに務められる役ではないことがわかるであろう。

映画は、役者と見えない糸でつながり、その影の形に添うように役者と一体となって舞台を完成させていく後見の役割と姿を、浮彫りにしていく。

【小道具の説明】

- ^{あいびき}合引：座って演技する時に、腰の下に置く箱
- ^{さしだ}差し出し：蝶々や鳥を竿の先につけて動かし、演技者の所作をたすける
- ^{さしがね}差金：棒の先にローソクをつけて主役の顔を照らす道具。別名^{つら}名あかり
- 引き抜き（玉抜き）：瞬間的に衣裳を替える演出様式



^{くろご}黒衣 ■ 一般の歌舞伎劇では通常後見は、目立たないように黒木綿の着物と頭巾を着用する。（「車引き」）



^{きつけ}着付後見 ■ 歌舞伎舞踊の場合、素顔で黒の紋付・袴を着てつとめる。（「双面」袖で出を待つ後見）



^{かみしも}袴後見 ■ 歌舞伎十八番のような様式性の特に強い演目では、髪と袴の扮装となる。（「解脱」）



上左/「双面水照月」。野分姫の亡霊の声をつとめる特殊な後見
上右/「寺小屋」の稽古風景。合引をあてる後見は、時には数十分、身じろぎもせず、役者の後ろについている
下/「双面」。火鉢にバツと煙を立てるしかけは、後見が差金をのぼして操作する

【市川升寿さんの話から】

後見というものは、主役から目を離さない。何がおきるかわかりませんから、絶対に目を離さない。必ず何かあります。その時に、ただ出ていってすぐ直したり、何かをするのではなくて、どういう箇所、どういうふう直したらいいのかということに常に考えておかなければなりません。

歌舞伎は土台、衣裳を物凄く着込んでおりますので、それに圧倒されがちなんです。それに負けない冷静な気持ちでないと、仕事がメチャクチャになってしまうんです。すました顔をしているんですけど、内心は体の中で汗をかいているんですよ。

仕事の処理、それを手早くすること、それからその主役に対して親切に仕事をしてあげること、これが一番大切なことなんじゃないかと思っています。

【スタッフ】 製作＝村山和雄 撮影＝黒柳 満＋山屋恵司＋木村光男 他 編集＝吉田栄子＋加納宗子 録音＝東京テレビセンター
脚本・演出＝藤原智子 照明＝藤来義門 解説＝竹内三郎 現像＝ソニーPCL

●製作

株式会社 桜映画社 〒151 東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
TEL 03(3320)6311代 FAX 03(3320)7666